



このコーナーでは、皆さんからの「お便り」や「写真」をお待ちしています。

【投稿について】

- ◆お便りは、字数 200 文字以内。写真は、1 枚につき 50 文字以内。(文章は、必要に応じて添削する場合があります)
- ◆住所・氏名・年齢・性別・電話番号・ペンネーム(記入がない場合イニシャルで掲載します)を記入の上、伊佐PR課までご投稿ください。
- ◆投稿は、はがき・封書・メールまたは直接伊佐PR課(大口ふれあいセンター2階)へ
- ◆締切は、毎月 10 日
※営利目的や個人、団体を批判・中傷するような内容は掲載できません。
※紙面の都合上、掲載できないこともあります。

【投稿・問い合わせ先】

〒895-2511
伊佐市大口里2845番地2
伊佐PR課
「和みのひろば」係
☎④4113
✉ koho@city.isa.lg.jp



5月、教育旅行(修学旅行)で種子島を訪れた田中・本城小児童の投稿です。

体育館に入った瞬間、パチパチと大きな拍手がなりびぎましました。伊関小の人たちが私たち24人を出迎えてくれたのです。びっくりしましたが、ワクワクもしてきました。疎開していたおばあさんの話、学校紹介、レクリエーションなど、みんなで交流を楽しみました。私が一番うれしかったのは、バスに乗って伊関小を出ようとしたとき、たくさんの人が見えなくなるまで手をふって見送ってくれたことです。楽しい交流会でした。
(田中小6年 ゆま)

など思いました。(田中小6年 めい)

台風が心配される中、ぼくたちは種子島にたどり着いた。そこではたくさんの方の出むかえに驚いた。姉妹都市として交流の舞台となった住吉小でも大歓迎され、一緒に給食を食べたり、お互いの学校紹介をしたりした。また戦争当時、本城にそかいされていた西之表の方の話や聞き、伊佐と西之表のつながりの深さを感じた。種子島を離れる時には、たくさんの方が手をふって見送ってくださり感激した。また種子島に行きたいと思った。
(本城小6年 こうき)

修学旅行で種子島に行きました。一番感動したのは海です。特に浦田海水浴場はとてきれいでした。砂浜が真っ白で、海がすきとおっていました。くつをぬいで海に入ってみました。冷たくてとても気持ちよかったです。私たちは水をかけあったり波を飛び越えたりと思いきりはしゃぎました。友だちの中には、貝がらやサンゴを見つけて集めている人もいました。また種子島に行くことがあったら海で泳ぎたい

私は修学旅行で種子島に行きました。種子島は青くてキラキラ光る海に囲まれていました。特に思い出に残った事が二つあります。一つは住吉小との交流です。皆で聞いたそかいの話は家族と離れるという悲しさが自分のことのように感じられて心に残りました。もう一つは、火縄銃を実際にうって見せてもらったことです。うった時の音の大きさは耳をふさぐほどでした。種子島から全国に広められた歴史など楽しく学ぶことができました。(本城小6年 らいむ)



編集後記

5月12日、台風6号で荒れる海を前に不安な気持ちで2小学校の到着を待ちました。戦後70年にあわせ作成する、学童疎開に関する記念誌の協議で西之表市に滞在中、教育旅行で田中・本城小の児童が同市を訪れるとのこと。西之表市さんの配慮で子どもたちを迎えることができました。揃いのハッピーと賑やかな音楽、島特有のあたたかなもてなしを感じます。長旅でうつむき加減だった児童と到着できた安堵感でホッとしていた先生方が驚きの表情に変わりました。

「伊佐市〇〇小の皆さん!ようこそ西之表へおじやり申せ!」の元気な声。大勢の客が下船する中、この出迎えが自分たちのためであることを知ると少し照れた様子で上陸しました。滞在3日間、地元小学生と交流したり、学童疎開の体験談を話しながら聞いたり、宇宙センターや火縄銃試射の見学など、思い出に残る旅だったようです。

今回初めて市の補助を受け姉妹都市のまちを訪れた教育旅行、天候さえクリアできれば価値ある経験になりそうです。来年はどの小学校が「感動体験」するのでしょうか。



人口のうごき (住民基本台帳から)

H27. 5. 1 現在 (前月比)

総人口	27,836 人	(- 36)
男	12,882 人	(- 27)
女	14,954 人	(- 9)
世帯数	13,945 世帯	(+ 33)